



《いま女性が憧れる男子は／神山監督：今の人たちにとってサクサク切り開いていくほうがリアリティがないんじゃないか／／の子さんが死ぬ気でやらなかったら私の子さん殺すから／上がりを決め込むつもりのおじいさん世代とそれを受けて（絶望して）座りを決め込む若者世代》本文抜文

「いま女性が憧れる男子は、喧嘩が強いとかそういうことではないだろう。おそらく、渋谷のスクランブル交差点のど真ん中で全裸で置き去りにされても、一五分後には靴を手に入れて、目的地に向かって走り出しているようなヤツではないだろうか」(アニメ監督：神山健治)

語って欲しいバンドを語ってくれない音楽雑誌やライターに我々、は反旗をひるがえそう！

これは、神聖かまってちゃん評である。そ、ニートの。。。

音楽の文脈を知っている音楽ライターが書かないから、

20代のks底辺が違った角度から「神聖かまってちゃん」評を紹介します。

今回は、東のエデンの「滝沢」という特異な主人公を軸に、神聖かまってちゃんについて語っていきます。

神聖かまってちゃんと東のエデン (2)

一滝沢との子からみる、いま女性が憧れる男性像とは

神聖かまってちゃんがモテる理由

勝新太郎を継ぐの子

「いま女性が憧れる男子とは喧嘩が強いとかそういうことではないだろう。おそらく、渋谷のスクランブル交差点のど真ん中で全裸で置き去りにされても、一五分後には靴を手に入れて、目的地に向かって走り出しているようなヤツではないだろうか」

(『月刊 アニメスタイル』一一年 第三号)

『攻殻機動隊STAND ALONE COMPLEX』や『009 RE:CYBORG』などの代表作をもつアニメ監督の神山健治が、いま女性が憧れる男子について語った言葉だ。

『東のエデン』というアニメを作るさい、OLをメインターゲットにするというハードルが課せられた。二〇〇八年当時、「草食系」という言葉が騒がれ、蔑みの意味で使われていたので、アニメの中で男子の復権をやろうと考えたそうだ。↓

今アニメにおいて、男子が主人公である作品がとても少なくなっていて、仮に主人公であったとしてもそれは便宜上のもので、物語を進めていくエンジンたりえない作品が多いと神山監督はいう。なんとなく分かるところがあるなとわたしは思った。

〇〇年代後半からだろうか、アニメ・ニコニコ動画・ネット界限では、女性が女性に性愛的に好意をもつという表現がネタとして消費されるようになったり、男性が女装をすることもオタク的なコミュニケーションのなかではネタとして消費されていた。最近ではそういった事がネタ消費だけでなく、本当に増えている気がする。SNSによって元々見えなかった層が見えるようになっただけなのだろうかとも思った。しかし、『オタク学入門』を書いたオタキングこと岡田斗司夫も、学校の講師を続けていてここ数年急に女性が女性に好意をもつ生徒が増えていることを実感し、指摘している。男性が女性に憧れ、女性が女性に憧れる。それが今の時代なら、神山監督の言う、男主人公の作品が少なくなるのは納得できる。物語を進めていくエンジンが男性では弱いのだ。男性も女性も女性キャラクターを見ているからである。↓

そんな現代で女性OLが憧れることができる男性主人公を考えてみると社会的に裏打ちされた相当の説得力が必要だ。自意識に思い悩むタイプでもなく、ケンカが強いというマッチョイズムでもなく、テクノロジーを扱える文系的な強さではない、現代の価値観に合うものを提示しなければいけない。そこで示されたのは、冒頭にある神山監督が言った男性像だ。

神山監督が手がけた〇九年のアニメ『東のエデン』の主人公の「滝沢朗」がそれだった。↓

神山監督が手がけた〇九年のアニメ『東のエデン』の主人公の「滝沢朗」がそれだった。一話冒頭、ワシントンD.Cのホワイトハウス前に全裸で現れた。それが初登場シーンである。その股間だけが白くかき消されてその姿はアニメ史上に残るヴィジュアルショックだった。自分の記憶をなくしてしまった滝沢は頼れる者もおらず、役に立つ持ち物もなく、全裸という姿であるのにも関わらず警察をたくみにまき、服を手に入れ、パスポートも入手し、ヒロインと話が盛り上がってすぐ仲良くなる、無事日本に帰国する。

初めてそれを目にしたときわたしにとってあまりに恐ろしかった。↓



初めてそれを目にしたときぼくにとってあまりに恐ろしかった。真っ裸でも動じない行動力とそれ以上のコミュニケーション能力、それはぼくのような文化系ボンクラにとっては強烈な憧れであり、憎むべき仮想敵だからだ。しかし、そういった行動力のある男だからこそ何かを突破して、何かを掴むのだろう。

『東のエデン』がどういう物語か簡単に紹介する。設定は、二〇一〇年一月に日本各地に一〇発のミサイルが落下するテロが起こる。しかし、危機意識を次第に人々は忘れていった。三ヵ月後、大学生の「森美咲」はワシントンで記憶喪失の青年「滝沢朗」と出会う。滝沢はセレソングームに参加していた。一〇〇億円を使って閉塞感漂う日本をどうにか救わねばならないというもので、十二人のうち最初にゴールした者以外は殺されてしまう。携帯電話（ノブレス携帯）を使えば、要求に応じて消費金額があり、その範囲内なら国家権力を動かすことも可能である。↓

日本の閉塞感を打ちやぶるという話は非常に興味深い。

上がりを決め込むつもりのおじいさん世代とそれを受けて（絶望して）座りを決め込む若者世代、それとその固まってしまった閉塞的な空気を壊したい若者たち（セレソングゲーム参加者）という構図だ。

一〇〇億円を使ってある者は芸術作品で世界を変えようと、ある者は政治内部から世界を変えようと、ある者は痛みというインパクトで世界を変えようと、さまざまな考え方があった。

主人公「滝沢朗」とその仲間たちもセレソングゲームに関わっていくが、策略などにかかり苦戦を強いられる。↓

後にテレビ版の続編である劇場版が作られるが、テレビ版では閉塞感を打破するまでには至らなかった。安易な結末に帰結しなかったのである。その代わりヒントのようなあるひとつの可能性が示された。その展開についてプロデューサーはネガティブすぎやしないか、もっと自分で状況を切り開いていくべきじゃないか、物語は基本的にはそういうものなんだからと意見を言ったらしい。神山監督は、今の人たちにとっては、サクサク切り開いていくほうがリアリティがないんじゃないか、と返したそうだ。

わたしは神山監督に非常に納得できる。アベノミで景気が上がったといっても日本の人口減るんだから一瞬だけ、保険料・消費税は下がらない、起業しても一二年で八割が倒産してる、企業は新卒一括採用をやめない、若者にとって不利な制度ばかりが目立つ、年金は破綻してる、このドン詰まり感である。↓

このドン詰まり感である。

そのせいか、閉塞感を打破してほしいという若者の思いと同時に世界からズレている者や事に対して、とても批判的であるとも感じている。まとめサイトやツイッターで道徳的に外れたものを必要以上に叩く行為にそれを感じてしまう。世界を変える人間を社会は望んでいるようで、いざ変わった人間がいると叩くという矛盾。

これは今に始まったことではないだろう。ネットだけでなく、昔から延々とマスコミがやってきたことである。

最近、勝新太郎の興味深い話を知った。↓

最近、勝新太郎の興味深い話を知った。

一言でいうと、とても型破りの俳優だった。演出するときも、役者が台本を覚えてきたら怒って台本を破り捨てるような人なのだ。「そんな書いてある文字を覚えたって、人間ってものを表現できるのか？ そんなことをしたって意味がない。お前はお前自身を、人生をかけて表現しろ」と言ったりする。「お前はもう賭場で一銭も持っていないくて、ここで負けたら首を吊らなきゃいけない。丁か半かで、生き死にが決まるところまで追い詰められているんだ。さあ、今から蓋を開ける。その時、お前なら何て言う？」と言ってから、「ハイ本番」とカメラを回し始める。お前の全存在をかけて表現しろ、という。そうやって作っているから、異常な迫力があったり、画面から伝わるものがすごい。そのかわり、後のシーンと全然つながっていなかったりする。

そのむちゃくちゃなダイナミズムこそが閉塞感を破る可能性があるように思う。

この勝新スピリッツを継いでいるのは「神聖かまってちゃん」だと思う。↓

この勝新スピリッツを継いでいるのは「神聖かまってちゃん」だと思う。

以前、神聖かまってちゃん恒例のライブ配信を観ていたときのことだ。演奏を終え、アンコールに待機している楽屋の廊下での子（V o, G t）がみさこ（D r）に、「お前、死ぬ気でやれよ！殺すぞ（いつもこんな口調です）」と言ったことに対して、みさこは「分かってる、の子さんが死ぬ気でやらなかったら私の子さん殺すから」と返していた。

痺れるやり取りだった。きっと、の子は演奏ミスのことですう言ったのではなく、勝新太郎のいう精神的なことを言っているんだと思う。みさこの返しから察するに、の子だけでなく神聖かまってちゃんメンバー全員にその精神が宿っている。

の子がときおり女装をするのは、↓

の子がときおり女装をするのは、神山監督が指摘する、女性の方がいまは物語を進めるエンジンを持っているということをもっとも分かっていてからである。

ライブ中に全裸になって演奏するさまは、『東のエデン』で閉塞感を打破すべく動く滝沢朗の登場シーンと関連している。神山監督のいう、いま女性が憧れるのはケンカが強い男ではなく、渋谷のど真ん中全裸で取り残されても、すぐに靴も服も手に入れて目的地に走り出している奴、という現代の主人公像にの子は重なるのだ。

女性という物語を進めていくエンジンをの子は女性性を持つことで獲得している。全裸でも目的に向かってすぐ走り出せる男という憧れられる要素も持っている。閉塞感の漂う空気を打ちやぶるアニメの主人公がまさにこの時代に音楽業界にいたのだ。加えて、メンバーも勝新太郎スピリットを持っている。

ロックシーンに漂う閉塞感ある空気を打ちやぶる素養を、これほどまでに持っているバンド神聖かまってちゃんは安住しない。きっといまもシーンに対して、次の手を考えている。何かを突破して何かを掴む姿を見せることがロックシーンの閉塞感を打ちやぶるはずである。神聖かまってちゃんにはそれができる。

うおお

神聖かまってちゃんと東のエデン (2)

一滝沢との子からみる、いま女性が憧れる男性像とは

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/82609>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ